

IoT社会実現に向けた次世代人工知能・センシング等中核技術開発

令和5年度概算要求額 **40.0 億円** (**54.8 億円**)

事業の内容

事業目的

少子高齢化により生産年齢人口が減少し、また社会が大きく変革するなか、顕在化する様々な社会課題を解決するキーテクノロジーであるAI技術を、実世界のすみずみまで実装させていくために必要となる次世代AI基盤技術・AIリモート技術・センシング技術の開発に取り組み、AI技術を根幹としたIntelligence of Things 社会の実現を目指します。

事業概要

本事業では、社会課題解決に向けた次世代AI基盤技術やリモート・センシング技術等を実世界の隅々まで速やかに実装させていくため、令和5年度は以下3事業を推進します。

(1) 次世代AI基盤技術開発

「人と協調できるAI」「実世界で信頼できるAI」「容易に構築・導入できるAI」に関する次世代AI基盤技術開発を実施します。

(2) 革新的リモート技術開発

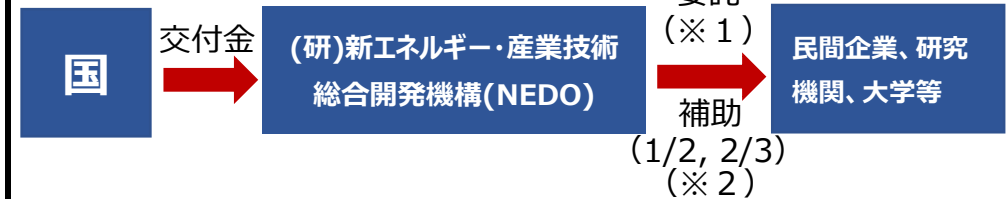
新たな行動変容を支える新しい社会・産業のインフラとしてAI技術を駆使したリモート化技術の高度化の推進を実施します。

(3) 革新的センシング技術開発

リアルデータを高精度・安定的・容易に取得可能とする超微量センサや過酷環境用センサ等の開発の支援、信頼性評価・向上技術の確立を実施します。

事業スキーム (対象者、対象行為、補助率等)

【事業スキーム】

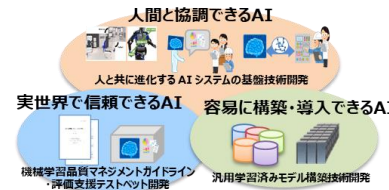


※1：(1)、(2)、及び(3)の一部【要素技術開発(1～3年目) 及び基盤技術開発】

※2：(3)の一部【技術実証・評価(4～5年目)】

【事業イメージ】

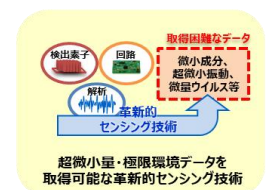
(1) 次世代人工知能基盤技術開発



(2) 革新的リモート技術開発



(3) 革新的センシング技術開発



成果目標

- (1) 次世代AI基盤技術開発 (令和2～6年度の5年間)、(2) 革新的リモート技術開発 (令和3～6年度の4年間) における研究開発成果を活用し、6件以上のAIシステム等の研究開発が行われることを目指します。(令和7年度目標)
- (3) 革新的センシング技術開発 (令和元～6年度の6年間) の事業において民間企業等が開発する革新的センシング技術から、事業終了後5年以内に3件以上の実用化の達成を目指します。(令和11年度目標)